



# 学校防災におけるアクションチェックバックの開発と建物診断を活用した新しい避難体制

愛知県名古屋市 愛知工業大学名電高等学校 名電防災チーム MDPT  
(現在所属 愛知工業大学 学防ラボ) 日比野 由奈



## 1 はじめに

Meiden Disaster Prevention Team (以下 MDPT) は、愛知工業大学名電高等学校 (以下本校) で活動している防災チームです。本校は約1600人が在籍する大規模校であり、避難場所であるグラウンドへの避難経路は横断歩道や細い道など安全確保が難しく、避難場所まで約500m離れています。そこで校舎の安全性や避難経路の妥当性を検証するのを機にMDPTを5年前より立ち上げ、生徒と教職員が連携し、避難訓練の計画・運営やより安全で実効性のある避難行動の検討を行っています。

## 2 災害時の柔軟な対応のために

アクションチェックバックによる職員配置の柔軟性

従来の避難訓練では避難誘導や人数の集計などの教員の担当を決めて訓練を実施していました。しかし、実際の災害時には「そのとき誰が職員室にいるかわからない」ため、事前の役割分担通りに動くことは困難です。そこで、発災時にその場にいる教員だけで、迷わず役割を割

り振り動ける仕組み (アクションチェックバック 図1、2) を作成しました。

その場で役割と配置場所が書かれたビブスを職員室にいる教員に配布します。ビブスは行動指示書 (アクションチェックカード) も付属しており、対応が初めての教員でも迷わず行動することができる仕組みとなっています。

この仕組みは、災害時に「決められた人が決められた役割を行う」のではなく、その時の状況に応じて柔軟に対応することを目指して作成しました。学校では多くの教職員や生徒が活動しているため、災害が発生する時間や場所によって、その場にいる人や状況は変化します。そのため、平常時の訓練だけを前提とするのではなく、誰がその場においても一定の対応ができる仕組みを整えることを目標としました。

また、長距離対応のトランシーバーの導入により発災後の救護所や避難場所と災害対策本部との情報のやり取りを迅速にしました。

なお、各教室にも教職員また生徒の行動の流れをまとめたアクションカード (図3) を設置することにより、災害発生で心理的負荷の大きい状況下でも適切な行動が取れる仕組みを整え



アクションチェックバックの内容



実際の使用の様子



アクションチェックカード

ました。

### 3 その他の取り組み

#### ①建物診断評価シートの作成と運用

専門家（大学教授や本校の設計・施工会社）の協力を得て、本校の耐震性や安全性の確認を行い、災害発生後に校舎へ戻れるかどうかを評価する「建物診断評価シート（図4）」を開発し、発生直後に教職員が校舎の安全度を簡易的

に判断・確認できる仕組みを構築しました。

#### ②トラップカードを活用した避難訓練

地震訓練では、「トラップカード」を導入しています。教員やクラスメイトに告知なしで傷病者（生徒）を発生させ、現場の教職員がその場の判断で対応することが出来るかなど、事前の準備に繋がっています。

#### ③防災委員の設定

各クラスに災害発生時のリーダーとして「防災委員」を設置しています。避難訓練時の記録

動画撮影やアンケート集計、情報伝達を担い、訓練の改善や現状把握に活用しています。

### 4 取り組みの成果と今後の展開

活動を通じて、より実践的な避難訓練を行うことで対応力の強化や迅速かつ的確な行動を行う体制が整ってきました。校内でも、文化祭や学校説明会など校内での啓発活動によりMDPTの取り組みが定着しつつあります。また、

他校との連携や意見交換を進めるとともに、日本災害情報学会への参加や、愛知工業大学で開催される学生大防災会議への参加など外部の場についても積極的に活動を展開しています。これにより、生徒が防災を自分ごととして考えるだけでなく、社会とつながりながら知見を広げ、学校全体の防災力向上に貢献しています。防災活動は、活動を続けること、つながりを大切にしていくことが大切だと考えています。

建物診断評価シート